

## ■ 令和6年度事業概要 ■

### I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等）	890点
寄贈資料受入れ総数（同上）	5,090点
計	5,980点
整理・保存 閲覧	収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録の作成等 利用者 延 2,608人

### II 展覧会事業

#### (1) 展覧会開催事業

事業名	実施時期 (日数)	観客数 (人)	展覧会の概要
常設展 北海道の文学	通年 (308日間)	6,441	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料約1,350点を紹介。 (◎展示構成を次頁に掲載。)
特別展 虚子・年尾と北海道	4/20(土) ～ 6/9(日) (44日間)	1,841	高濱虚子生誕150年にあたる今年、貴重な資料の展示を中心に、虚子・年尾というふたりの俳人が北海道にのこした足跡と、「ホトトギス」に関する道内作家たちの活躍などを紹介。
特別展 絵本作家 降矢なな原画展	6/22(土) ～ 8/25(日) (56日間)	4,405	降矢なな（ふりや・なな、1961年～）は、スロバキア共和国在住の絵本作家。多くの絵本や児童書の挿絵で活躍中。ダイナミックな線と構図、明快な色彩……物語にふさわしい表現を駆使して子どもたちが絵本の世界であそび、夢中になれる工夫を凝らしている。 本展では、代表作を中心とした原画を紹介。
特別展 氷室冴子の世界 ふくれっつらの ヒロインたち	9/7(土) ～ 11/10(日) (57日間)	3,527	氷室冴子は、岩見沢市出身の小説家。岩見沢東高等学校を経て藤女子大学文学部国文学科に進学し、在学中にデビュー。1980年代から90年代にかけて集英社の少女向け小説レーベル「コバルト文庫」の代表作家として活躍した。 平安時代を舞台にした「なんて素敵にジャパネスク」、スタジオジブリでアニメ化された「海がきこえる」、古代日本をテーマにしたファンタジー「銀の海 金の大地」など数々の人気作を生み出した。 氷室作品に登場する、自分の感情に素直に生きる「ふくれっつら」のヒロインたちは、時代を超えて生き生きとした魅力を放っている。 多くの読者に愛され続ける氷室冴子の作品世界を多彩な資料とともに紹介。
ファミリー文学館 雪が降る一本の中にも、 文字の上にも……	11/23(土) ～ 1/19(日) (45日間)	1,711	「ファミリー文学館」は、子どもから大人まで幅広い年代の人たちを対象にした、展覧会と体験型の内容を組み合わせ実施する事業である。今年度は、「雪」をテーマに、各ジャンルの文学作品に描かれた「雪・冬」の情景を当館所蔵作品の中から紹介。
特別展 木原直彦と北海道の文学	2/1(土) ～ 3/23(日) (44日間)	1,003	北の地に生まれ、幾多の時代の波にさらされながら多彩な成果を紡ぎ出してきた北海道の文学。 1966年、札幌で開催された北海道文学展は大きな成功をおさめ、翌年、北海道文学館が設立、文学資料の収集とともに文学展を開催し、1995年の北海道立文学館開館へと結実した。北海道立文学館初代館長だった木原直彦は、北海道文学に関する数多くの著作を執筆している。 2025年、開館30年を迎えるにあたり、本展では、木原の眼を通して、様々なエピソードを交えながら北海道文学の歩みを回顧。

## 【常設展アーカイブ】

- ・第1期展示〔4月13日（土）～6月12日（水）〕

### 山と文学

登山家、小説家、画家。様々なジャンルで書かれた山についての資料を紹介。

- ・第2期展示〔6月25日（火）～9月16日（月・祝）〕

### 嗚呼 メレヨン島

太平洋戦争時メレヨン島で駐留した兵士の飢餓の苦しみと望郷をテーマとした柿本胤二の絵画を紹介。

- ・第3期展示〔9月28日（土）～12月28日（土）〕

### 森田たまと素木しづ

札幌で生まれ、大正初期に小説家としてデビューした2人の女性の小説家としての歩みや作品世界を紹介。

- ・第4期展示〔1月11日（土）～3月23日（日）〕

### 札幌の映画と演劇

1980年代の札幌における映画や演劇の動向を、当時の資料とともに紹介。

## (2) 常設展の展示構成

### 〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良ほか〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」原稿、北方謙三「林蔵の貌」原稿、高倉新一郎『覆刻札幌農学校』 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」原稿、石川啄木「雲は天才である」原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」原稿、森田たま「きもの博士」原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」原稿、久保栄「火山灰地」原稿、本庄陸男「逆流」原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文化的青春伝」原稿、中村武羅夫色紙、岡田三郎「かほちゃ談義」原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」原稿、石塚喜久三『花の海』、坂本直行カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」原稿、風巻景次郎「札幌地理学」原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海文学」（原田康子「挽歌」掲載）、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」原稿、李恢成色紙、三浦綾子短冊（三浦光世筆）、高橋揆一郎『『伸子』覚え書き』原稿 ◆変転する現代 渡辺淳一「リラ冷えの街」原稿、北海道ゆかりの芥川賞・直木賞受賞作家と作品 ◆文学マップ「小説の中の北海道」

### 〈アイヌ民族の文学〉〔青柳文吉〕

知里幸恵、金成マツ、金田一京助、知里真志保、バチェラー八重子、森竹竹市、萱野茂、遠星北斗、鳩沢佐美夫、杉村キナラブック、砂沢クラ、山本多助、葛野辰次郎、宇梶静江、北原モコットゥナシ、小笠原小夜

### 〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元「北の墓標」原稿、吉村昭「北天の星」原稿、李恢成『サハリンへの旅』、寒川光太郎「(オロッコ族)」原稿

### 〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」扁額、小熊秀雄「裸婦」原画 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」原稿、和田徹三「命」原稿、河邨文一郎「オホーツク」原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修色紙

### 〈北海道の短歌〉〔内田弘〕

◆北海道歌壇の動き 小田観螢、並木凡平、酒井広治、山下秀之助、伊東音次郎 ◆北海道歌人会 その主な活動 ◆歌人達の揮毫 野原水嶺、芥子澤新之介、小田観螢、宮西頼母、川村濤人、樋口賢治 ◆北海道を詠む 石川啄木、太田水穂、若山牧水、土屋文明、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤茂吉、佐藤佐太郎、橋本徳寿、宮柊二、太田青丘、齋藤史、清原日出夫

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 齋藤玄、寺田京子、比良暮雪、佐々木丁冬ほか ◆俳句の現代 鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治より昭和（前期）まで 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西島〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和 20 年代より平成 7 年まで 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆現在の活動状況 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和 20 年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和 30 年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和 40 年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

Ⅲ 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担金事業。※印は財団企画事業。

事業項目	事業名	実施時期（日数）	目標観覧（参加）者数（人）	観覧（参加）者実績数（人）	観覧（参加）率	備考
ファミリー文学館（朗読会等）	朗読会「雪が降る」 朗読：澤井貴良子（朗読講師）、安藤千鶴子（音声表現講師）	12月1日（日） 1月19日（日）	50	103	206.0%	「ファミリー文学館」展 関連事業
〃	講座「短歌・俳句・川柳に描かれた雪」 講師：田中綾（歌人）、五十嵐秀彦（俳句作家）、岡崎守（北海道俳句連盟顧問）	11月23日（土・祝） 12月7日（土） 1月11日（土）	50	104	208.0%	〃
〃	手作りコーナー「雪のカードをつくろう」	11月24日（日） 12月22日（日） 1月13日（月・祝）		38		〃
講演会・セミナー・講話等	「山と文学」講座 講師：当館学芸主幹	5月15日（水） 5月29日（水）		69		常設展（アーカイブ） 関連事業
〃	「嗚呼、メレヨン島－柿本胤二絵画展」記念講演会 講師：谷口孝男（財団理事）、当館副館長	8月11日（日）		24		〃
〃	「森田たまと素木しづ」展示解説 講師：当館職員	12月5日（木）		4		〃
〃	「札幌の映画と演劇」講座 講師：当館学芸員	2月27日（木）		19		〃
〃	対談「虚子・年尾と私」 出演：荒船青嶺（俳人）、佐藤宣子（俳人） 司会：増田植歌（俳人）	4月21日（日）	50	52	104.0%	「虚子・年尾と北海道」展 関連事業
〃	展覧会見どころ紹介講座 講師：五十嵐秀彦（俳句作家）	4月27日（土）	50	50	100.0%	〃
〃	対談「虚子の心を引き継いで」 講師：稲畑廣太郎（俳人）、星野高士（俳人） 司会：増田植歌（俳人）	5月18日（土）	140	86	61.4%	〃
〃	講演会「絵本 ～絵とテキストの関係～」 講師：降矢なな（絵本作家）	6月29日（土）	60	56	93.3%	「降矢なな」展 関連事業
〃	講演会「本はふしぎへの扉」 講師：富安陽子（児童文学作家）	7月15日（月・祝）	60	50	83.3%	〃
〃	ギャラリーツアー 解説：当館学芸員	7月27日（土）	20	7	35.0%	〃
〃	読み聞かせとワークショップ 「みんなの『きよだいな きよだいな』なんだろな」 （午前・午後開催） 講師：当館学芸員	8月10日（土）	60	21	35.0%	〃
〃	見どころ解説講座 講師：当館学芸員	8月18日（日）	50	26	52.0%	〃
〃	講演会「氷室作品のヒロインたち その魅力」 講師：嵯峨景子（ライター・書評家）	9月15日（日）	50	53	106.0%	「氷室冴子」展 関連事業
〃	文芸トーク「氷室冴子さんと私の文学少女時代」 講師：ヤリタミサコ（詩人）、聞き手：嵯峨景子	9月16日（月・祝）	50	43	86.0%	〃
〃	上映会「海がきこえる」	9月22日（日）	50	50	100.0%	〃
〃	ドキュメンタリー上映会 「没後15年 氷室冴子をリレーする」	9月29日（日）、10月9日（水） 10月23日（水）、11月6日（水）	100	70	70.0%	〃

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率	備考
講演会・セミナー・講話等	トークイベント「氷室冴子さんとコミカライズ」 講師：山内直実(漫画家)	10月5日(土)	50	47	94.0%	「氷室冴子」展 関連事業
〃	朗読劇「レディー・アンをさがして」	11月4日(月・振休)	50	34	68.0%	〃
〃	オープニングセレモニー	2月1日(土)		24		「木原直彦」展 関連事業
〃	講演会「わが小説のこと」 講師：小繪山博(作家)	2月1日(土)	50	52	104.0%	〃
〃	講座「北海道を彩った作家たち」 講師：当館学芸員	2月8日(土)、3月1日(土) 3月9日(日)、3月16日(日)	120	83	69.2%	〃
〃	ギャラリートツアー 解説：当館学芸員	2月15日(土)、2月22日(土) 3月8日(土)、3月15日(土)	50	13	26.0%	〃
〃	ミニ解説&朗読会 解説：当館学芸員、朗読：公募朗読者	5回開催 2/12、2/19、2/26、 3/5、3/12	100	92	92.0%	
夏休み文学道場	「夏休み文学道場」(対面・オンライン開催)	7月19日(金)~8月30日(金)、 8月7日(水)	30	21	70.0%	
小・中・高生短歌 コンテスト	小・中・高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰 (募集)	7月2日(火)~9月10日(火)	4,300	7,272	169.1%	
〃	小・中・高生短歌コンテスト表彰式	12月14日(土)		78		
〃	小・中・高生短歌コンテスト作品展示	12月7日(土)~1月19日(日)		879		
わくわくこどもランド	紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに親子で参加	15回開催 5/5、6/2、7/7、7/28、7/31、8/1、 8/4、9/1、10/6、11/10、12/8、 12/15、12/22、1/12、2/2、3/2	450	352	78.2%	5/5は2回実施
映像作品鑑賞会	「山と谷と雲」	6月23日(日)	60	48	80.0%	
映像作品鑑賞会	「堂堂たる人生」	8月25日(日)	60	42	70.0%	
映像作品鑑賞会	「伊豆の踊子」	11月17日(日)	60	39	65.0%	
映像作品鑑賞会	「いのちの朝」	2月16日(日)	60	47	78.3%	
市町村連携事業 「文学館出前講座」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	20市町村22会場	1,200	1,041	86.8%	
市町村連携事業 「ミニ巡回展」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	8市町村8会場	3,000	7,277	242.6%	
文字・活字文化の 振興事業	講演会「活字文化の味蕾」 講師：和田由美(出版社社長、エッセイスト)	10月27日(日)	60	29	48.3%	
古典の日記念朗読会	古典の日にちなみ、古典文学作品を朗読 源氏物語から「未摘花」 朗読：河原多恵子(言葉のアトリエ主宰)、 琴演奏：手塚早苗	11月3日(日・祝)	60	46	76.7%	
月例朗読会	朗読：ドラマチックリーディンググループ蔵 ほか	10回開催 5/23、6/13、7/11、8/8、 9/12、10/10、11/14、 12/12、1/9、2/13、3/13	500	348	69.6%	
文化施設連携事業	「カルチャーナイト2024」 展示室の夜間開館、ナイトギャラリートツアー、大人も楽しめる人形劇、夏の夜のコンサート、古書バザール等を実施	7月19日(金)	200	191	95.5%	観覧者数：常設 展・特別展の夜 間開館(再掲)を 加えると241人
文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(308日間)	4,200	2,608	62.1%	
文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用(貸館)	通年(308日間)		761		
負担金事業計			15,500	22,349	144.2%	
※ 文学館カレッジ	知里幸恵と『アイヌ神謡集』を読み解く、加藤幸子の 人と人生、太宰治-戦後の女性小説、絵本を学ぼう、 逆順太宰治、生涯読書会の6講座	6~3月	500	373	74.6%	
※ ロビーコンサート	ハープと竖琴の調べ 演奏：ラマンブルー、たまゆり チェロコンサート 演奏：西村新一 クラシックギターコンサート 演奏：デュオ・フェル マータ他	11月2日(土)、 3日(日)、7日(木)	100	105	105.0%	
※ 中島公園 ぶんがく縁日	ぶんがく縁日、朗読会「原田康子の世界」、講演会「『古 事記』から『銀の海 金の大地』へ」、絵本交換会	10月13日(日)、 14日(月・祝)	100	440	440.0%	
※ ぶらり文学散歩	身近な土地と文学の関わりを解説	6/27、9/11、10/24	30	39	130.0%	
※ 文学館まつり	一日限りの資料公開、講演会「日常の中にあるもの」、 親子手作りコーナー、秋のミニ色紙づくり	9月23日(月・振休)	150	64	42.7%	観覧者数：一日 限りの資料公開 (降雪展・再掲) を加えると163人
※ ロビー展示	文学への関心等を促すため収蔵品資料等を展示	4/29~7/18、7/21~9/22、 9/25~12/5、2/25~3/30、 追悼展2回 4/12~22、1/25~2/9 全6回		6,485		
※ 小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(308日間)	100	24	24.0%	
※ 文化公演の活動	コンサート、朗読会の会場に利用	閉館後の夜間等	600	148	24.7%	
財団企画事業計			1,580	7,678	485.9%	
	合計		17,080	30,027	175.8%	

#### IV 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 特別展「虚子・年尾と北海道」展関連資料調査
- ② 特別展「絵本作家 降矢なな原画」展関連資料調査
- ③ 特別展「氷室冴子の世界」展関連資料調査
- ④ ファミリー文学館「雪が降る一本の中にも、文字の上にも……」展関連資料調査
- ⑤ 特別展「木原直彦と北海道の文学」展関連資料調査
- ⑥ 特別展の図録作成に要する調査
- ⑦ 次年度の特別展「安部公房 21世紀文学の基軸」展関連資料調査
- ⑧ 次年度の特別展「長谷川四郎とそのきょうだい」展関連資料調査
- ⑨ 次年度の特別展「おばけのマール ほんがだいすき！」展関連資料調査
- ⑩ 次年度の特別展「文学館コレクションの輝き」展関連資料調査
- ⑪ 次年度のファミリー文学館「空を見上げる 太陽・月・星……文学」展関連資料調査

#### V 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援並びに共催により支援した。

(後援)

- ① 中川町教育委員会  
第31回中川町短歌フェスティバル（令和6年5月10日～6月30日 中川町）
- ② 北海道川柳連盟  
北海道川柳大会（令和6年7月21日 札幌市）
- ③ 北海道横超会Ⅱ  
吉本隆明生誕100年記念講演会（令和6年10月13日 当館）
- ④ 北海道詩人協会  
北海道詩人協会2024北の詩祭（令和6年11月12日 札幌市）
- ⑤ 北海道芸術文化アーカイヴセンター  
シンポジウム「北海道の文化を 掘る・残す・活かす」（令和6年11月25日 札幌市）
- ⑥ 北海道学校図書館協会  
作者を囲んで「北緯44度浩太の夏」読書会（令和6年10月13日 札幌市）
- ⑦ 異文化異言語コミュニケーション協会  
チャリティー翻訳ワークショップ（令和7年3月1日 札幌市）

(共催)

- ① ダーチャ・マライーニ氏を日本に迎える会  
ダーチャ・マライーニ氏の札幌帰郷記念写真展（令和6年6月15日～19日 当館）
- ② アーティスト企画  
北林隆ギターリサイタル（令和6年10月9日 当館）
- ③ Sound Space クラシックコンサート実行委員会  
Sound Space クラシックコンサート（令和6年12月8日 当館）

#### VI 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を作成・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催をPRするため、新聞等での有料広告を行った。
- ② 「北海道文学館館報」は、第137号（5月23日付）、第138号（8月9日付）、第139号（11月6日付）、第140号（3月7日付）を発行した。「北海道文学館報」第133号（7月12日付）、第134号（10月20日付）、第135号（12月25日付）、第136号（3月6日付）を発行した。

## **Ⅶ 刊行物の刊行事業**

- ① 特別展「虚子・年尾と北海道」展図録の刊行
- ② 特別展「絵本作家 降矢なな原画」展リーフレットの刊行
- ③ 特別展「氷室冴子の世界」展図録の刊行
- ④ 特別展「木原直彦と北海道の文学」展図録の刊行
- ⑤ 「令和5年度年報」の刊行

## **Ⅷ その他の付帯事業**

- ① 博物館実習生の受入  
令和6年8月2日～8月9日（6日間）、実習生4名  
令和7年2月4日～2月12日（6日間）、実習生2名